



▲(左から)どぶろくの製造・PRに携わる吉田智さん、真部八千億さん、細川和美さん、真部孝さん。今年の秋には、お手ごろサイズの小瓶を発売予定。お楽しみに!

歩き遍路の途中で訪れた親子と笑顔の一枚。「気をつけていってらっしゃい」と産直市の安部吉未世さん(右)



願の里だより」を定期的に発行するなど、地域へ愛着を強く感じてもらうような取組みに力を入れていきます。

産直市を担当する多田梨恵さんは、こうした活動のおかげもあって、産直市を気軽に訪れる人が増えたと言います。「この産直市には休憩スペースもあるから、住民がよく集まります。私も、友人に会えば話し込んでしまいます。とても癒されますよ」と。訪れる人の笑顔が「やりがい」だと笑います。

かつて地域活動の拠点だった

小学校は6年を経て、住民がゆつくり世間話ができる一外に出て行った人も帰ってきて集まれる一大切な場所として、新たな役割を果たしています。

**後世につながる
新しい仕掛けを**

7月末現在、地区の人口は435人。多和の会では、地域の高齢化や人口減少と向き合いながら、新しい仕掛けを模索しています。

その取組みの一つが、国内では栽培実績の少ない野菜づくり

です。

眞部会長は「今は試作段階やけど、産直市に魅力ある商品が増えれば、訪れるお客様に興味を持ってもらえるし、新しく出品する農家や若い人達が増えるかもしれない。新商品をみなさんにお披露目できる日が、今から楽しみや」と、目を輝かせて語ります。

また、「できるだけ多和にしかないもの、できないことを提供していきたい」と力強く話す眞部会長。地域密着ならではの安心感や温かみを大切にして活動を続けます。

今回の取材をとおして印象的だったのは、取材中、眞部会長が「小さなことでもいい。まずは面白いと思ってやってみることで大事」と話していたことです。地域を元気にするため挑戦し続ける住民の歩みがあったからこそ、現在の活動があるのだと感じました。そして、地区の歴史や伝統がずっと続くことを願う住民のみなさんの思いが受け継がれる限り、これからも地域に根付いた活動は続いていくでしょう。

取材協力…
地域おこし協力隊 吉川

私たちが応援しています!



多和診療所 施設管理者
堤 康先生

10年ほど勤めていると、顔なじみの方が増えました。必要に応じて、訪問診療や専門医療機関との連携も行っているため、住民の方は、お気軽にご相談・ご利用ください。

【診療時間】

火曜日: 13:00~16:00
木曜日: 9:00~12:00
(木曜日は外来のみ)



多和駐在所警部補
吉本 幸生さん

毎月、駐在所から発行する「多和だより」の作成を頑張っています。

日頃から、地域行事に呼んでいただいて、嬉しい限りです。常時、地区内をパトロールしていますので、いつでも声をかけてください。住民のみなさん、振込み詐欺や交通事故には、十分気をつけてくださいね。